

東京藝術大学COI拠点「『感動』を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点

文化共有研究

「文化を育むイノベーション」

テーマリーダー：宮廻 正明
(東京藝術大学 特任教授)

サブテーマリーダー：深井 隆
(東京藝術大学 特任教授)

概要と成果

文化財を保存するには文化財を非公開にするのが最良だが、文化資本を活用した観光産業の推進や、文化の多様性を受容する世界平和の推進の為には、文化財を公開するのが最良である。質感までも再現するクローン文化財の開発を通じて、日本文化の本質的価値を物質化することで、文化財の「保存と公開」の両立を推進した。

オリジナルを忠実に再現するクローン文化財に加え、消失した文化財や現存文化財の劣化や欠損部を再現したスーパークローン文化財、あらゆる文化財の制作当時に表現しなかった本質を当時の技術や材料制約から解放し現代科学技術下で再現したハイパー文化財を開発し、物質に加えて思想までも継承する新たな文化継承手法を国内外に提案した。

今後は、継承すべき日本古来の思想や文化を次世代へ継承し、国民教育の底上げと観光収入増大による日本の文化立国、海外流出文化財の再現を通じた世界平和への貢献を目指す。

展覧会を通じた文化継承の推進



文化による外交の推進



G7伊勢志摩サミット・サイドイベントにクローン文化財を展示し、宮廻教授が各国首脳にプレゼン実施

フランス共和国オランド大統領（当時）に流出文化財のクローン文化財を寄贈